

# すいはく 博物館だより

No.50



## 館長就任にあたって

6月1日付けで吹田市立博物館の館長職を拝命した中牧弘允なかまきひろちかです。小山修三前館長の後を受け、微力ながらも全力を尽くす所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

吹田に住んで35年、勤務先も吹田の国立民族学博物館でした。民博を3月末で定年退職し、縁あって地元の文化活動の一翼を担うことになりました。吹田の魅力を発掘し、発信し、発展させることが使命だとかがえております。

専門は宗教人類学、経営人類学、ブラジル研究です。宗教人類学の分野では日本国内の宗教はもとより海外に伝播した日本宗教を追いかけました。ハワイ、カリフォルニア、ブラジルが主な調査地です。余勢をかってブラジルでは民衆文化やアマゾンの先住民文化の研究もしました。経営人類学の領域では主に現代の会社文化に取り組みました。高野山の会社供養塔、社葬、企業博物館などが研究対象でした。その延長線上に「ベターシティ・ベターライフ」の上海万博の研究が位置づけられます。

博物館の展示としては民博の日本文化展示「祭りと芸能」、アメリカ展示の「祈る」のコーナーなどを担当しました。JICA横浜海外移住資料館の常設展示、旧神戸移住センターの移住ミュージアムの常設展示にも深くかかわりました。

また、博物館と学校をつなぐ博学連携の活動にも関心を寄せ、日本国際理解教育学会との共催で「博学連携教員研修ワークショップinみんぱく」を2005年に立ち上げ、恒例の夏季イベントとして定着させることに腐心してきました。学校の児童生徒には博物館をもっと活用してほしいと願っています。とくに先生方がそのカギを握っています。

実は、吹田に住んでいながら知らないことがいっぱいあります。館長就任の晩はヒメホテルをはじめて見に行きました。オスのホテルが一斉にシンクロして光るさまは圧巻でした。シンクロナイズド・スイミングならぬシンクロナイズド・ライトニングは博物館活動にも示唆しき的でした。いつもはバラバラに点滅しているホテルが同調するのですから。

これからは吹田市民に吹博があってよかったと思ってもらえるような活動を心がけていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

中 牧 弘 允



## 夏季展示「子どもと環境 むかし・いま・これから」

会期：平成24年7月21日(土)～8月26日(日)



ここに三つの地図があります。これらは吹田ヒメボタルの会のメンバーが里山を緑色、田畑や果樹園を黄緑色、宅地を茶色にぬって作った吹田市の地図で、左から1956年、1968年、1995年のものです。

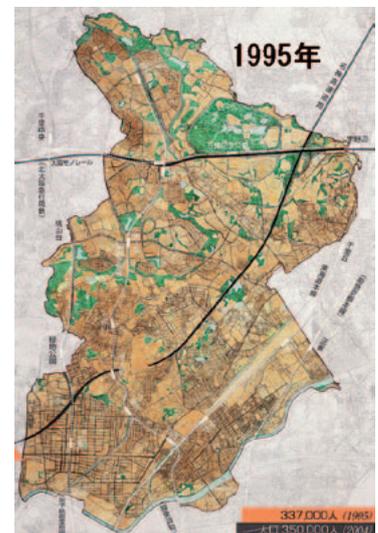
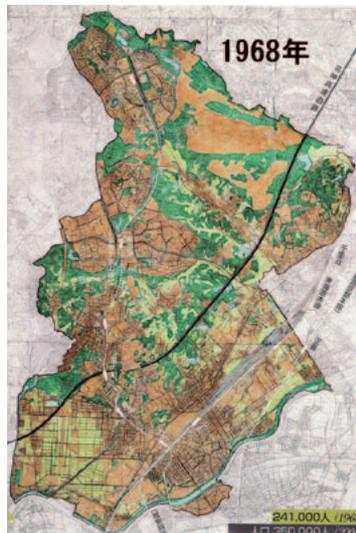
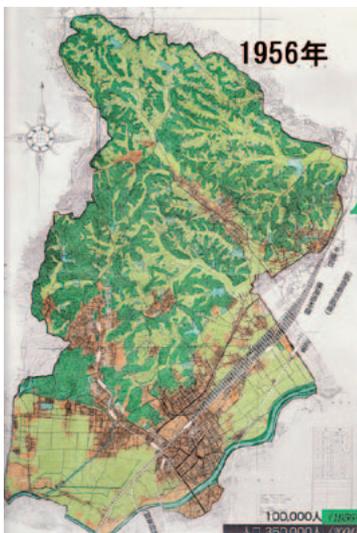
1956年(昭和31年)といえは、経済白書が「もはや戦後ではない」と書いて流行語にもなった年です。吹田市の人口は10万人、市北部の千里丘陵は里山で、市南部にも広大な田畑が残り、明治時代とさほどかわらない景色でした。電灯やアイロンやラジオがあり、三種の神器といわれた洗濯機や冷蔵庫、白黒テレビがやっと普及しかけたころでした。このころに子ども時代を過ごした人は現在60歳を超えた世代です。

二枚目の地図は1968年(昭和43年)。千里ニュータウンへの入居も順調に進んだところで、大阪万博の2年前です。阪急千里線は1963年に北千里まで延伸され、JR千里丘駅付近の丘陵地や東海道線南側にあった田畑の大部分が宅地になっています。その結果1956年からの12年間で人口は24万人と二倍以上になりました。このころが子ども時代だった人は今は50歳前後になっています。彼らは吹田の各地に田畑が残り、田植えのころにはカエルの合唱を聞き、ツバメが田んぼの上や自分の家の前を飛びかう様子を日常として体験した世代です。2年後に開かれた万博ではじめて灯<sup>とも</sup>った原発の灯<sup>ひ</sup>は昨年までは充分に是非を論じる機会もなく増え続け、

それと同時に私たちの生活で使うエネルギーの量も増加の一途をたどってきました。

三枚目は1995年(平成7年)で、阪神淡路大震災の年の地図です。万博直前に田んぼの真ん中にできた新御堂筋、北大阪急行の沿線が江坂を中心に宅地化され江坂地区ではかろうじて垂水神社周辺の緑が残ったに過ぎません。こうして人口は33万人を超えました。このころ子ども時代を過ごした人はすでに20歳なかばを迎えています。彼らは吹田市内に残った、わずかなみどりしか体験できていない世代です。ほんの60年間でみどりがなくなり、私たちはスイッチひとつで便利と快適さを手にするためにエネルギーをふんだんに使った「豊か」といわれる生活になじんできました。しかし、2011年の東日本大震災とそれに続く原発事故によって、スイッチの向こうにあるエネルギー問題に目を向けざるをえなくなりました。

今回の展示では、これらの地図を展示するとともに、現在の吹田のみどり地図を作りながら、便利と快適さを追求してきたわたしたちの生活と価値観を振り返ってみます。そしてその振り返りのうえに、子どもたちが豊かなみどりや生きものと共に楽しく生きていく、そんな未来を描くことができるなら、その方途を見つけることができるならと願っています。そのために、おとなたちが何が何でも一緒に考えてみましょう。(小田忠文・喜田久美子)



## 節電の夏～非電化グッズと太陽光発電

節電の夏といわれ、これを契機にずいぶん電気の使い方がかわるのではないかな、生活の仕方がかわるのではないかなと思っていたのですが、この原稿を書いている時点では、政府は生活のためといって原発を再稼働させる方針です。

福島第一原発の事故によって故郷を失った人々に、ともにがんばろうといったことばが空しく響きます。しかし、わたしたちはもう知っています。スイッチの向こうに大きな不安や犠牲を抱えたこんな生活を、ずっと続けてはならないということ。

あまたある電化製品のスイッチを入れれば便利で快適な生活ができる、そんな暮らし方からすれば、節電はとても不便。快適もほどほど、時間も労力もかかります。でもそれほど不幸せでもありません。それに節電ということばが「がまん」ということばと結びついて語られているのには違和感があります。スイッチひとつで無駄なことをやめればいいのだし、やれるところからやったらいいのだし、なにより工夫が楽しいです。

いまさら、電気のない生活ができると思ってはいるわけではありませんが、電化製品と同じ目的の仕事をするのに電気を使わない道具、つまり「非電化グッズ」って、どんなものがあるのだろうと集めてみることにしました。まずは日本の古い道具たち。もちろん非電化でした。洗濯は砧きぬたやたらいと洗濯板でしたし、明りはろうそく・ちょうちん・ランプがありました。冷蔵



太陽光発電コックピット1号。すいはいには2号が来ます。

庫だって、氷冷蔵庫があったし、手回し蓄音機もありました。現代の非電化の道具は、手回しラジオや懐中電灯、ジューサー、夏は扇風機のかわりになるものと考えればうちわや扇子もそうでしょう。ほかにも、非電化のものはいろいろあって、ゴム、ネジ、ゼンマイ、風力、太陽光を利用したものなど。動くおもちゃも電池や充電なしで遊べるものはいろいろあります。

さらに、自分で電気を創り出せるというミニ太陽光発電装置を展示しようと思います。これは台車の上に蓄電池ごと収まっているので、ベランダや庭などどこでも太陽光発電というわけです。これからの電化製品は消費電力の少ないものができてくるはずです。

戦後から現代まで、わたしたちはいつの間にか無意識に、あらゆるところでずいぶんたくさん電気を使うようになりました。ちょっと意識すれば、

ほどほどに使う、なるべく使わない、こんな暮らしができるはず。それが未来を生きる人たちの命と暮らしを確かなものにしてくれる、そう思っています。

(喜田久美子)



たらいと洗濯板



氷冷蔵庫

## あらあら不思議 カラクリ装置

夏季展では、子どもたちに電気を使わない動力で遊べるおもちゃで遊んで、節電について考えてもらおうと、からくり装置を展示することにしました。

カラクリ人形は江戸の昔から人々に愛され、お祭りや芝居小屋などでも人気の的であったといわれています。最近では、NHKで放送されている「ピタゴラスイッチ」なども広く言えばカラクリの一種でしょうか。今年の夏、博物館の夏季展示で何かカラクリ的なものを展示したらどうか、という意見が出て挑戦することになりました。手探りの状態で始まり、構想、設計、材料購入、試作と実験で明け暮れています。結局は、ピタゴラ装置風な作品となりそうで、私たちは、それなりに考えて、自分たちのカラクリを作ろうと挑戦しています。エコおもちゃ作り市民塾では、カラクリおもちゃと称して子どもたちと一緒に作って一緒に遊ぶことを活動

の一つとして行なっています。その作品も今回展示する予定にしています。カラクリ装置を展示することは、カラクリ装置から言えば不本意で、単に展示



からくり装置

だけでなく、実演してみても初めてカラクリの仕組みや面白さがわかります。今回は展示といいながら来館者と一緒に実演したり、来館者が自分で実演し、遊べるようにしたいと考えています。

(小川忠夫)

## 博物館に「野草園」を造る

「野草園」を造っているのは、博物館3階の南側にある「広場」の地続きで、竹が生えササや野草が生い茂り、梅やイチジクの木などが植えられていたところです。ここは「広場」と共に紫金山公園の一部で、博物館が当時の緑化公園室より「管理の許可」を得て、使用しています。

今春、「紫金山みどりの会」の会員が、野草の育つのをジャマする竹を伐採して日当たりを良くし、ミカンの木などを植え、散策路を造り、「野草園」として整備しました。竹を伐採したところ



博物館 野草園

を含めても1,000㎡にも満たない、実にせまい面積の「野草園」ですが、田畑の土手や雑木林などで、普通に見かける野草を自然に育てることのできる場所として大切にしたいと考えています。

市の一部に北摂の山地がある池田、箕面、茨木、高槻などの市では、里地や里山の植物として、普通に見ることのできる野草が、市街化が進んだ吹田市では、自生する場所を失って、普通に見ることができなくなりました。

博物館に造る「野草園」は、成育が危ぶまれ、吹田市にとって希少となったと思われる野草を集め、保護し、育成することを目指しています。これから自然環境や植物などについて関心のある市民団体などの協力を得ると共に、研究機関、学識経験者等の意見や調査結果などを基に「タネ播き」や「移植」などを行い育成する予定をしております。野草や里山の観察会など、四季折々に自然を体験できるような事業を行いたいと考えております。(塩田敏治)

## 生物多様性に配慮した庭づくり



昨年のグリーンのカーテン

昨年の夏季展で生物多様性に配慮した庭づくりをテーマに「ガーデニングが地域の自然を壊す」というショッキングな講座を、兵庫県立淡路景観園芸学校景観園芸専門員の澤田佳宏先生にお願いしました。市民の皆様にも好評で、大きな関心を持っていただけたと思います。本年も8月15日に澤田先生に再度講演をお願いすることにしました。生物多様性についてさらなる知識を得たいと思います。また、吹田には、団地やマンションが多くありますので、ベランダでのガーデニングについても、澤田先生のご紹介で兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科准教授の岩崎哲也先生に、講義をしていただけることになりました。耕地が少なく、市街化が進んだ吹田では、ベランダでの植木鉢やプランターを使ったガーデニングや菜園は大きな緑化の推進につながると思います。吹田市では、地球温暖化対策や地産地消への取り組みとして、行政と市民の協働による緑のカーテンの普及が推進されています。緑のカーテンはゴーヤだけではなく、キュウリやカボチャなどでも作れます。レタスや白菜など葉物野菜もプランターなどで育てることができます。ベランダガーデンの中に、花だけではなく、ピロやサクランボ、イチジクなど実のなる木があれば、子どもたちには楽しいことだと思います。

家庭の緑は吹田の自然が増えることにもなりますし、葉の緑は大気の浄化につながり、ベランダの照り返しを吸収して温暖化の抑止にもな

ります。新鮮で安心な収穫は、地産地消や流通でのエネルギー消費への抑制にもなり、数え切れないほどのエコの効果につながります。市民の皆様がそれぞれ植木鉢一つ、プランター一つでも緑を育てる取り組みをしていただければ、大きな緑環境の創設にもなりますし、その中で生物多様性についての大切さや環境への配慮を考えていただければ、子どもたちに残す明日の吹田が明るいものになると思います。

まずは、自らが学び、体験し、子どもたちにその楽しさや自然の美しさを教え、伝えていただきたいと思っています。それが子どもたちのこれからの宝物になることを信じています。

家庭での菜園は、地産地消ではなく、自産自消で究極のエコだと私の仲間がいております。収穫が多くて近所に配ったら、自消ではなく、何とえば良いのでしょうか？

子どもと環境(むかし、いま、これから)をテーマにしたこの夏季展に一人でも多くの市民の皆様が、家族連れで吹田市立博物館に来られ、自然環境への理解を深めていただくことが実行委員全員の願いです。(伊藤忠征)



ベランダで育てたかぼちゃ

## 吹田市の巨大災害シナリオ～市民はいかに備えるべきか～

昨年3月11日の東日本大震災が発生して、もう1年と3ヵ月が経過しました。市民の皆さんは、震災に関する報道に接する機会も減り、あまりこの震災のことを意識せずに暮らす時間が増えたのではないかと思います。

ですが被災地の復興がそれほど順調に進んでいるわけではなく、今なお多くの方が仮設住宅に暮らし、住宅や仕事の再建の<sup>めど</sup>が立っていない方々も多数いらっしゃいます。これだけの巨大災害が起こると、その後の復興も激しく困難となることを改めて思い知らされます。

そして、何より我々が関心を持たなければならないことは、まもなくやってくる「西日本大震災」の発生に備えることです。これまでも、東海・東南海・南海地震の三つの震源域が連動して発生する巨大地震の発生について政府は想定しつつ対策を検討してきましたが、そこでの想定はマグニチュード8レベルに留まっています。しかし、東日本大震災の教訓を踏まえ、起こりうる最大の地震を想定するという考え方に基づいて、政府が今年4月に発表した想定では、大阪府内でも震度6強の揺れをもたらし、3メートル～5メートルの津波が大阪湾に押し寄せるといった衝撃的なものでした。吹田市でも、南部の神崎川流域については、津波による浸水の可能性<sup>は</sup>があります。このあたりは、淀川が氾濫した場合にも広範囲に長期間冠水<sup>は</sup>することが想定されます。

また、従来から指摘されていることですが、こうした海溝型地震の発生する前後では内陸型の地震の発生頻度が高まるとされています。吹田市に最も大きな影響を及ぼすと考えられている活断層の一つに上町断層があります。国による想定では全体で42,000人の死者が想定される大地震です。吹田市も大多数の地域で震度6強以上の揺れが想定され、多数の死者が出る<sup>こ</sup>ことが予想されています。

これまで述べたいずれのシナリオも、吹田市だけではなく、周辺自治体あるいは関西広域にまたがる大災害となります。吹田市はおよそ6万人が大阪市内に通勤通学しており、平日昼間の災害発生であれば交通手段を失い、帰宅困難者となります。東日本大震災発生時には、東京に物理的な被害はほとんどなかったにもかかわらず、交通機関の麻痺<sup>まひ</sup>によって、東京都内に勤務する人々の3割以上が当日に帰宅できなかったという調査結果もあります。特に東南海・南海地震発生時には、東日本大震災がそうであったように、全国的に物流がとどこおり、燃料をはじめとするあらゆる物資が逼迫<sup>ひっぱく</sup>することとなるでしょう。

意外と認識されていないのは、電力の問題です。原子力発電所のリスクばかり取りざたされますが、関西電力の火力発電所はいずれも津波による被害が予想される太平洋側・瀬戸内に立地しています。原子力発電がほとんど稼働できない状況で大規模な津波が発生すれば、関西は電力供給のほぼすべてを長期にわたり喪失してしまいます。地震や津波による破壊もさることながら、こうした社会的機能の喪失による被害も大変恐ろしいものがあります。8月25日の講演が、このような中、私たちにできる備えは何か、ともに考えていくきっかけになればと思います。

(関西大学社会安全学部准教授 永松伸吾)



津波で被害を受けた陸前高田市街の様子。街は完全に機能喪失した。

(平成23年4月30日筆者撮影)

## あなたの住まいの土地環境－地震災害にかかわる宅地造成地の特性－

### (1) はじめに

大阪平野周辺の丘陵地は、粘土・砂・礫<sup>れき</sup>などからなる大阪層群からできています。大阪層群は比較的軟らかいため、容易に削り取れます。さらに、丘陵地が都市近郊地でもあり、大規模な宅地開発がすすめられました。宅地開発では、丘陵は切り盛りによって平坦化されました。

阪神・淡路大震災では、埋立地や丘陵地の造成地（盛土地）で地盤災害が多発しました。豪雨に伴う地盤災害もここに頻発<sup>ひんぱつ</sup>しています。

本稿では、三田村宗樹氏らの報告（2011）にもとづいて、千里丘陵の宅地造成地の特性について解説します。

### (2) 盛土地の脆弱性を決定する素因<sup>ぜいじやくせい</sup>

盛土地は地震動に対して大変脆弱です。この脆弱性を決定する素因は、①盛土の厚さ、②盛土の材料、③ため池埋立地、④地表面傾斜です。以下に、素因ごとに解説します。

#### ①盛土の厚さ（図1参照）

縮尺1万分の1大阪府地形図（1961年発行）と縮尺2万5000分の1デジタル地形図〔標高〕（1997年国土地理院発行）を重ね合わせ、両者の等高線を比較し、盛土の分布とその厚さを推定します。両者で標高の同じ等高線が交わったところは、盛土地と切土地の境界となります。後者の地形図の方が標高が高い地域は盛土地、標高が低い地域は切土地です。また、盛土の厚さを両地形図の標高差から推定します。盛土の厚さは、千里丘陵北部で10m以上のところが多く、その南部で10m以下のところが多い。

#### ②盛土の材料

盛土地は、かつてそれに隣接していた尾根を削り、谷を埋め立てて造成されます。したがって、盛土の材料は、削り取られた尾根を構成していた物質からできています。地質図及び地質柱状図から、盛土の材料を推定します。千里丘陵の東縁地域及び西縁地域で泥質材料が多く使用され、その他のほとんどの地域で砂礫質材料が多く使用されています。

#### ③ため池埋立地

前出の両地形図を比較して、ため池埋立地を検出します。千里丘陵では、埋め立てられたため池跡地が約760カ所あります。

#### ④地表面傾斜

前出の後者の地形図から地表面傾斜を読み取ります。千里丘陵の西縁を南北に走る仏念寺山断層及びその北縁を東西に走る小野原断層帯に沿う地域で、それは大きく、6°を超えます。それ以外の地域では、小さく、6°以下です。

### (3) 千里丘陵の盛土地の特性

千里丘陵の盛土地を前述の4素因によって総合的に評価すると、その特性は次の通りです。

①千里丘陵の盛土地はひな段状に薄く盛土され、全体的に砂礫質の材料からなっています。そのために、液状化しやすい。

②仏念寺山断層帯と小野原断層帯に沿って、千里丘陵の起伏量は相対的に大きく、造成後もこれらの地域の盛土地は比較的大きな傾斜をもち、そのため、その脆弱性は大きい。

### (4) おわりに

吹田市立博物館では、来る8月11日、三田村宗樹氏（大阪市立大学大学院教授）による標記のテーマの講演を予定しています。詳しく知りたい方、関心のある方はぜひご参加ください。

（林 隆夫）

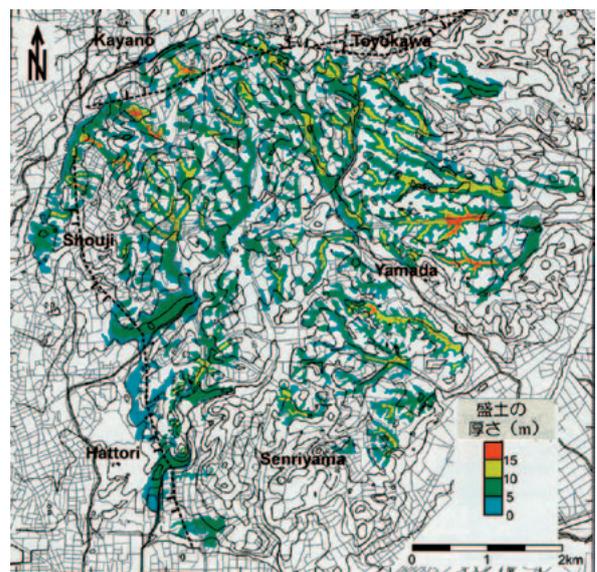


図1 千里丘陵の盛土分布とその厚さ

（三田村ほか，2011）

## 夏季展示イベント 「金環日食を観察しよう」



5月21日金環日食の観測

平成24年5月21日早朝に、932年ぶりの金環日食を博物館広場で観測することができました。

日食とは、月が太陽の前を横切るために、月によって太陽が隠される現象をいいます。しかし、金環日食と皆既日食があり、今回の金環日食は、太陽のほうが月より大きく見えるために月のまわりから太陽がはみ出して見える現象のことを言います。

この日の天気は薄曇りで、日食が観測できるかどうか不安でしたが、応募抽選で当選した約100名の親子が、午前7時から集合し、欠け始

めた日食を観察しました。2日前の朝8時からの研修講座で作成した手作り日食メガネと、講師・杉野文昂氏（神戸市立青少年科学館）の事前学習が大変役に立ちました。

金環日食がおこる5分前位から、雲が途切れて、きれいな日食を観測することができました。金環日食が始まる30秒前から、観察者のカウントダウンが始まり、丁度7時29分57秒に、金環のリングができたときには、大きな歓声にとどろきました。

広場では、子どもたちが日食状態を時間ごとに図に書き込んだり、近くの大きな木々からの木漏れ日を、白い大きな板や白い紙に、無数の日食状態の太陽を投影したりしました。また、大人の方が日食観察用の望遠鏡を設置していたのを覗かせてもらったりしました。

次の金環日食が近畿地方で観測されるのは、29年後の2041年10月25日です。

（高畠耕一郎）

## チリメンモンスターを探そう！

チリメンモンスターの「チリメン」とは、「ちりめんじゃこ（縮緬雑魚）」のことで、イワシ類（イワシ類・シロウオ・イカナゴなど）の小魚を食品にしたものです。「モンスター」は、「怪物。化け物」という意味です。実際に、チリメンジャコを虫眼鏡で少し拡大して見ると、いろいろな海の小魚を観察することができます。中にはタチウオやヒラメ、さらにはタコやカニ、エビの仲間まで、本当に海の中に生きている様々な生き物を発見することができます。ただし、普通の店で販売している「チリメン」は、イワシの稚魚ちぎょだけです。イワシの群れだけを狙い、他の小魚が入ると、きれいに選り分けて、イワシだけになるようにして市販しているのです。しかし、小さな目の網で普通に海から捕獲すると、多様な種類の小魚が捕獲できるのです。昔のチリメンジャコは、本当にいろんな種類の小魚が入っていました。

こうしたいろいろな小魚が混じったチリメンジャコから、チリメンモンスターを一つ一つ



昨年のチリメンモンスター探し

種類を探し出し、名前をあてていくゲームのような楽しさを味わうことができるのが、この「チリメンモンスターを探そう！」の講座です。最近、とても人気になり、絵本や見分け方の本、図鑑がいくつも発行され、テレビでも紹介されたりしています。大人も子どもも虫メガネがあれば、楽しく、遊びながら海の多様性を学ぶことができます。（高畠耕一郎）



## 企画展「さわって楽しむはくぶつかん inすいた」

会期 平成24年9月2日(日)～9月30日(日)

当館では、平成18年(2006)より「見る」ことよりも「さわる」ことに重点をおいた展示に取り組んできました。さわり、においを嗅ぎ、音を聞き、五感をフルにとぎすまして、仏像レプリカや和楽器などのモノに直接触れることは、見るだけでは得られなかった新たな情報を得ることができます。さらに、昨年度の秋季特別展では一歩進めて、館蔵品の一部をさわれるようにケース外に配置しました。特に、視覚障がい者の方にとっては、実物資料にふれるまたとない機会となったようです。

ただ、この展示は視覚障がい者だけを対象にしているわけではありません。障がいのある人もない人もともにみんなで、資料をさわり、感じ、体験を共有することのできる展示だと思っています。視覚障がい者が、健常者にさわり方を教えることもあるでしょう。認知症のお年寄りが、むかしのくらしの道具について使い方や

思い出話を子どもたちに話すこともあるでしょう。お年寄りから子どもまで、障がいのあるなしにかかわらず、みんなで一緒に体験して楽しめる展示をめざして、今後も「さわって楽しむはくぶつかん inすいた」として「さわる」展示に取り組んでいきたいと思っています。

(池田直子)



昨年の秋季特別展での展示

## さわるということ

近頃「さわる展示」をテーマに各地の博物館が力を入れ始めています。2011年度の吹田市立博物館の秋季特別展で文字通り「さわるーみんなで楽しむ博物館ー」でも、展示品に触れることができました。視覚障がい者にはこの取り組みは大変ありがたいものでした。

視覚障がい者にとっての「さわること」は、健常者にとっての「見ること」と同じです。指や手が目のかわりをつとめ、モノをすみずみま

でさわることによってものを「みている」のです。ただ、視覚障がいのある子にとって、同じ素材であれば、人形



さわるとは見ること

の服の色違いまではわかりません。けれども素材や織り方などの違いは指先で感じ取ることができます。資料に触れ、壊れることを恐れる学芸員は多いですが、視覚障がい者はモノに優しくふれ、資料を傷つけることのないことを知って欲しいと思います。

吹田市立博物館は何年も前から「さわる」をテーマにいろいろな物を展示してきました。例えば、仏像、観音菩薩と阿弥陀如来の違い、縄文時代の模様に入れ方などは手で触れて初めて理解できますし、民族衣装も自分で着て触れてみて、その服の感触や温かさ、時には毛皮の臭いも感じることができます。また、「目でみる」だけでは味わえない感覚を「手でふれる」楽器は、実際に音を出してそれぞれの展示品を理解できるのではないのでしょうか。

このように、全ての人々が「て」で見る「触学・触楽」を味わえるのがこの展示の醍醐味です。

(宮浦 美栄子)

## 旧西尾家住宅・旧中西家住宅での催し

### ◆◆◆ 旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館）◆◆◆

国の重要文化財に指定されている旧西尾家住宅では、一般公開を行い、その近代和風建築としての特徴を活かした様々な企画・催しを行っています。

3月17日から4月8日にかけて、当住宅主座敷にて、小さな特別展「蒔絵師 神戸雪汀と西尾家」展を開催しました。

神戸雪汀<sup>かんべせつてい</sup>は、昭和初期から戦後にかけて吹田市内で制作活動を行った蒔絵師<sup>まきえし</sup>です。明治8年（1875）に加賀藩士神戸盛久<sup>かんべもりひさ</sup>の長男として生まれ、加賀蒔絵を修行し、23歳で上阪。藪内<sup>やぶのうち</sup>節庵<sup>せつあん</sup>の知遇を得た雪汀は、節庵を通して西尾家とつながりを持ち、後に当家の内部支配人を務めます。また、西尾邸の近くに工房を構え、多くの蒔絵作品を制作しました。

本特別展では、吹田市内に伝えられていた34点の作品を展示しました。会期中、約700名の方にご来館いただき、盛況のうちに終了しました。

問い合わせ／〒564-0032 吹田市内本町2-15-11  
電話 06-6381-0001



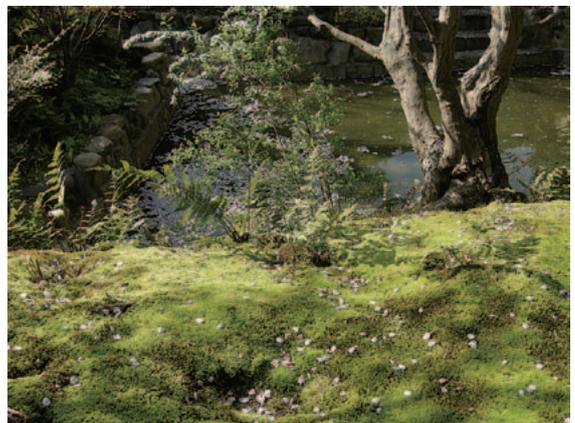
### ◆◆◆ 旧中西家住宅（吹田吉志部文人墨客迎賓館）◆◆◆

国登録有形文化財及び市指定有形文化財である旧中西家住宅では、水曜日・土曜日・日曜日のそれぞれ午前10時・午後1時・午後3時に、申し込み制による一般公開を行っています。

当住宅に伝わる多くの美術工芸品や歴史資料は博物館や文化財保護課の職員が調査を行っており、その成果は博物館春季特別展「大庄屋 中西家名品展」に活かされました。

問い合わせ／〒564-0002 吹田市岸部中4-13-21  
電話 06-6386-1182

4月4日～4月12日に、春の特別公開を行いました。



特別公開期間中の旧中西家住宅

(中岡宏美)

## ペーパークラフトで歴史を学ぼう5

吹田市立博物館では平成19年（2007）以来、皆様に文化財に親しんでいただいたり、楽しく学んでいただくためにオリジナルのペーパークラフトを作成しています。これまで19作品を作りました。

今回はこれらのうち、未紹介のNO.14～18の5作品のペーパークラフトを紹介します。作品の種類は様々で製作のペースは一定ではありませんが、これからも順次作っていききたいと思います。

なお、NO. 1～16のペーパークラフトは吹田市立博物館のホームページで型紙等を公開しています。

（西本安秀）



きしべじんじゃほんでん  
「NO.14 吉志部神社本殿」

平成22年（2010）の秋季特別展「災害から地域遺産をみなおす—吉志部神社の復興—」の際に展示用模型として製作したものをもとに一般配布用に作ったものです。型紙製作等に数か月を要した大作です。



たんばかめやまじょうてんしゅ  
「NO.15 丹波亀山城天守」

吹田市内を通る主要な道である亀山道（亀岡街道）に因み、丹波亀山城天守の復元模型を製作したものです。二重の付櫓のある五重の層塔型天守で美しい仕上がりとなっています。



じんじゃけんちく いっけんしゃながれづくり  
「NO.16 神社建築 一間社流造」

平成23年（2011）に新規に吹田市指定有形文化財となった江坂素盞鳴尊神社本殿と蔵人稲荷神社本殿等の一間社流造を参考に製作したものです。



こまつ  
「NO.18 小松ロケット」

平成24年（2012）の「小松左京写真展～宇宙に翔く夢～」の際に配布用として製作したものです。腕の部分が回転するようになっています。

とうみ  
「NO.17 唐箕」

平成23年（2011）度の特別企画「むかしのくらしと学校」の際に当博物館内で常設展示を行っている唐箕（手回しの風車で穀物等を選別する、明治時代の農具）をもとに製作したものです。取っ手部分が回転し、風車が回るようになっています。



月	火	水	木	金	土	日
<b>夏季展示「子どもと環境-むかし・いま・これから-」 イベントカレンダー</b>					7/21	7/22
<ul style="list-style-type: none"> <li>●★印のイベントは事前に申込が必要です。ハガキまたはFAXに、講座名、午前または午後、住所、参加者全員の名前、電話番号を書いて、博物館へ。多数抽選。締切日必着。</li> <li>●★印のイベントは事前申込不要です。当日直接博物館講座室にお越しください。定員/先着120人。</li> <li>●イベントの参加費は表記のあるもの以外は、無料です。</li> <li>●ホームページ(<a href="http://www.suita.ed.jp/hak/">http://www.suita.ed.jp/hak/</a>)・チラシ・市報すいたもご覧ください。</li> </ul>					14:00~15:30 <b>★オープニングイベント</b> 「頭と体をほぐす癒しのアトラクション」 曲芸 & 腹話術 西村いくをさん マジックショー 見並森男さん みんなで歌体操 加藤昌子さん	13:30~16:30 <b>★フォーラム</b> 「明日の吹田-私たちの夢見る環境-」 市内の高校生・大学生の皆さん
7/23	7/24	7/25	7/26	7/27	7/28	7/29
休館		10:00~12:00 13:30~15:30 <b>★親子工作</b> 「森のクラフト」 すいた市民環境会議の皆さん 定員 各40人 募集締切 7/15			13:00~15:00 <b>★コンサート</b> 「ジャズのつどい - テキシーからスイングまで -」 千里山トラッドジャズクラブ 16:00~18:00 <b>ダンス</b> 「みんながダンサー - STREET DANCE COLLECTION -」 音楽雑技団 CoroBacio	11:00~11:40 14:00~14:40 <b>★演劇</b> 子どもミュージカル 「小さな葉っぱの物語」 関西大学 教授 内田慶市さん
7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5
休館	10:00~12:00 13:30~15:30 <b>★親子体験</b> 「チリメンモンスターを探そう」 大阪自然環境保全協会の皆さん 定員 各30人 募集締切 7/21	11:00~11:30 14:00~14:30 <b>読み聞かせ</b> 「絵本がいっぱい」 すいた市民環境会議の皆さん他 定員 各先着20人 観覧料が必要	10:00~16:00 <b>親子工作</b> 「木っ端細工で楽しいクラフト」 エコおもちゃ作り市民塾の皆さん 時間中随時受付 12:00~13:00 <b>そうめん流し</b> 先着100食 12:00~ <b>ゴーヤのジュース</b> 先着50杯	14:00~15:30 <b>★落語</b> 「環境落語を楽しもう」 岩久ケイ子さん 緑繁文さん 藤岡繁喜さん	14:00~16:00 <b>★フォーラム</b> 「吹田くわいの食と文化」 吹田くわい保存会の皆さん	14:00~15:30 <b>★講演会</b> 「文化としての環境 - 普段着のエコ -」 関西大学 教授 内田慶市さん
8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12
休館		11:00~11:30 14:00~14:30 <b>読み聞かせ</b> 「絵本がいっぱい」 すいた市民環境会議の皆さん他 定員 各先着20人 観覧料が必要		11:00~11:30 14:00~14:30 <b>読み聞かせ</b> 「絵本がいっぱい」 すいた市民環境会議の皆さん他 定員 各先着20人 観覧料が必要	10:30~12:00 <b>★歴史講座</b> 「考古学と"環境"」 当館学芸員 高橋真希 14:00~16:00 <b>★講演会</b> 「あなたの住まいの土地環境 - 地震災害にかかわる宅地造成地の特性 -」 大阪市立大学大学院 教授 三田村宗樹さん	14:00~16:00 <b>★フォーラム</b> 「子どもと環境」
8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19
休館	10:00~16:00 <b>親子工作・体験</b> 「子ども遊び広場」 エコおもちゃ作り市民塾の皆さん 時間中随時受付 10:00~15:30 <b>親子体験</b> しゃぼん玉遊び 時間中随時受付 12:00~13:00 <b>そうめん流し</b> 先着100食 12:00~ <b>ゴーヤのジュース</b> 先着50杯	11:00~11:30 <b>読み聞かせ</b> 「絵本がいっぱい」 すいた市民環境会議の皆さん他 定員 先着20人 観覧料が必要 14:00~16:00 <b>★講演会</b> 「生物多様性に配慮した庭作り」 兵庫県立淡路景観園芸学校景観園芸専門員 澤田佳宏さん 兵庫県立大学大学院 准教授 岩崎哲也さん	10:00~12:00 13:30~15:30 <b>★親子工作</b> 「リサイクルにアタック 宿題工作を作ろう」 SA吹田おもちゃ作り市民塾の皆さん 定員 各30組 募集締切 8/4 10:00~15:30 <b>親子体験</b> しゃぼん玉遊び 時間中随時受付 12:00~ <b>ゴーヤのジュース</b> 先着50杯	11:00~11:30 14:00~14:30 <b>読み聞かせ</b> 「絵本がいっぱい」 すいた市民環境会議の皆さん他 定員 各先着20人 観覧料が必要	10:30~12:00 <b>★歴史講座</b> 「水辺の環境と生業」 当館学芸員 藤井裕之 14:00~16:00 <b>★講演会</b> 「未来の子どもたちに残す吹田の環境」 吹田市環境政策室 室長 後藤圭二さん	16:00~17:30 <b>★コンサート</b> 「たそがれコンサート」 紫金山グリーン合奏団
8/20	8/21	8/22	8/23	8/24	8/25	8/26
休館	10:00~12:00 13:30~15:30 <b>★親子工作</b> 「森のクラフト」 すいた市民環境会議の皆さん 定員 各40人 募集締切 8/11	11:00~11:30 14:00~14:30 <b>読み聞かせ</b> 「絵本がいっぱい」 すいた市民環境会議の皆さん他 定員 各先着20人 観覧料が必要	13:30~15:30 <b>★博物館バックヤードツアー</b>	14:00~16:00 <b>★講演会</b> 「正雀川と鴨川のほとりで考える - 社会的不利条件を生きる -」 大阪人間科学大学 准教授 石川久仁子さん	14:00~16:00 <b>★講演会</b> 「吹田市の巨大災害シナリオ - 市民はいかに備えるべきか -」 関西大学大学院 准教授 永松伸吾さん	14:00~15:00 <b>★演劇</b> 「ええもん見〜つけた! - 山田さんちの半世紀」 劇団にのいち